

No. 1084

日本シリーズ

— 中日～ロッテ第5戦 —

1974年度日本シリーズ第5戦ロッテ～中日戦は、10月21日後楽園球場に2万8千の観集を集めて行なわれました。2勝2敗どちらも負けられない一戦、ロッテがエース木樽をたてれば、中日は若武者鈴木孝政を先発に送ります。

1回裏ロッテの攻撃、先頭の岩崎がヒット、それを飯塚がバントで送って早くも一死二塁のチャンス。このチャンスに3番得津がセンター前ヒット、岩崎選んでロッテ早くも1点を先取しました。

木樽の好投の前に6回まで2安打散発に押えられていた中日は7回二死ながら谷沢がエラーで出塁、しかし、このチャンスも木俣凡退で得点ならず。その裏ロッテは有藤のヒットに相手のエラーもかさなって、スクイズで手堅く1点を追加、鈴木をノックアウト。結局試合は9回の中日の反撃も木樽の力投の前に実を結ばず2-0でロッテが勝ち「日本一」にあと1勝とせまりました。

54万・人間広場

2年にもわたる長い準備期間の後にようやく迎えた10月20日。第一回練馬区民祭は54万・人間広場と名付けられ実現した。54万人にふくれあがった練馬区。この我町に心が通い合う場が欲しいという区民の声が高まる中でこの人間広場の構想がねられていった。実行委員長の山村さんは、

“誰れでも住み良いふるさとにしたい。青森からきた人もいるしまだ1.2年しか住んでいない人も実行委員会にいる。その人達がなぜやろうとしたか。ここですよ。住み良い練馬にしたいからこそ、我々が立ち上がってかちとっていくんですよ”
すべてゼロからの出発。会場の場所さがしも長い曲折を経てカネポー工場跡地を借りられることになった。そして5万坪にも及ぶ草刈り。そしてその他準備の仕事はきりがなかった。しかし全員が手弁当で打ちこんだ。練馬をふるさとにする子供たちに対して僕らには責任がある。これがメンバーたちの気持を支えていた。そして10月20日、人間広場は実現した。そこにはいろんな笑顔があった。もちつきを見たことのない子供のかけ声、紙芝居。のど自慢などに時は過ぎる。広場には人の笑顔が絶えなかった。

片隅で身体障害者施設の人々がカンパを求めている。ここでもあたたかい心と心のふれあいがあった。成功であった。彼等の夢は更に大きく拡がる。将来は練馬区だけでなく東京の祭りにまでしたいという。54万・人間広場は、1千万・人間広場のいしずえなのだ